

2017年(平成29年) 11月17日(金曜日) 毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

11/2~11/8のNYMEX・WTIは、54.54~57.35ドルの範囲で堅調に推移した。

11月9日は、サウジが12月の原油輸出量を日量12万バレル削減するとのロイター報道、ジェンスケープ社のWTI原油の受渡点クッシングの原油在庫が前月比100万バレル超の取り崩しとなった旨の報道等により、12月限の終値は前日比0.36ドル高の57.17ドルだった。

週末10日は、このところの高値による利益確定売りが目立ち、また、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が738基と前週比9基増加したこと、反落した。12月限の終値は前日比0.43ドル安の56.74ドルだった。

週明け13日は、協調減産延長への期待感、サウジ情勢不安やサウジ・イランの対立激化、イラン西部の地震等による供給懸念より、買いが先行したものの、利食い売り等に押しかえされ、12月限の終値は前週末比0.02ドル高の56.76ドルだった。

14日は、国際エネルギー機関(IEA)月報における世界の需要見通しの前号比2017年日量6万バレル、18年同18万バレルの下方修正、前日のリグ稼働の増加等米国のシェールオイル増産の動きなど、供給過剰感の再燃から、反落した。12月限の終値は前日比1.06ドル安の55.70ドルだった。

15日は、EIAの米国在庫週報で原油とガソリンがともに積み増しとなり、前日のIEA月報で2018年の需要予測が下方修正されたことから、供給過剰への警戒感が高まり、12月限の終値は前日比0.37ドル安の55.33ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週58.80~62.20ドルの範囲で堅調に推移し

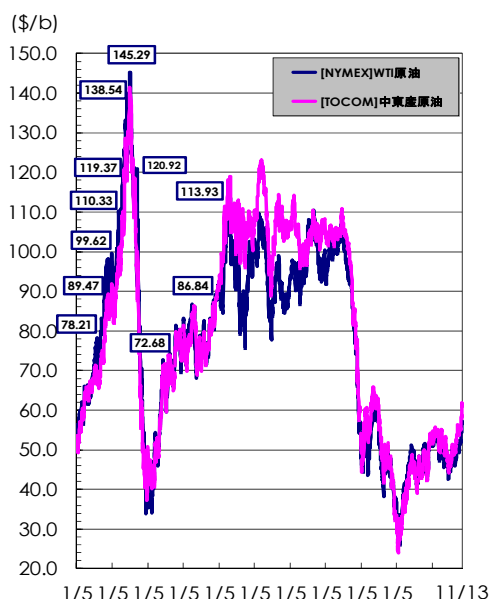
た。11月9日61.60ドル、10日61.90ドル、13日61.70ドル、14日61.40ドル、15日59.80ドルで推移した。

為替は、前週113.73~114.38円と円安に推移した。11月9日114.06円、10日113.39円、13日113.68円、14日113.66円、15日113.48円で推移した。

主要元売会社の11月第3週(従来の表記「11月第4週」から変更致しました)に適用する卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに、1.5~2.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、11月13日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.8円の値上がり、軽油は同1.6円の値上がり、灯油も同1.6円の値上がりだった。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油も9週連続の値上がり、灯油は8週連続の値上がりだった。この週(11月第2週、従来の表記「11月第3週」から変更致しました)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに2.0円の値上げだった。

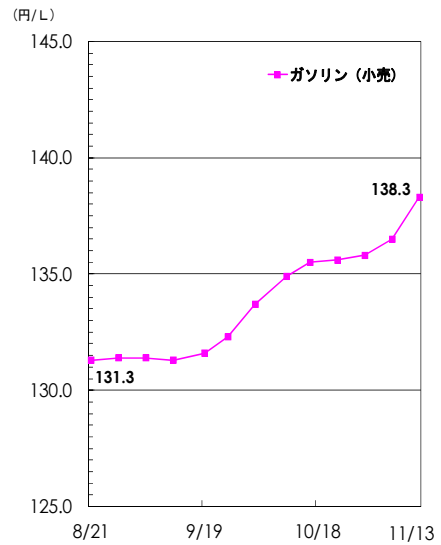
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/5 ~ 11/11	3,516 ▲ 97	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.8 ▲ 2.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/11	13,094 ▼ -438	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/13	61.19 ▲ 1.18	▲ 18.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/13	56.76 ▼ -0.59	▲ 13.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	54.89 ▲ 1.06	▲ 9.59
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	38,894 ▲ 948	▲ 9,713
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.65 ▼ -0.58	▼ -10.23
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/13	114.68 ▲ 0.70	▼ -6.32



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/5 ~ 11/11	1,096 ▲ 90	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	979 ▲ 35	▲ -	
	輸出	"	60 ▲ 5	▲ -	
	在庫	11/11	1,641 ▲ 57	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/7 ~ 11/13	58.7 ▲ 2.1	▲ 17.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/7 ~ 11/13	59.2 ▲ 2.0	▲ 19.0
		(TOCOM/中部)	11/13	58.7 ▲ 0.5	▲ 18.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/13	138.3 ▲ 1.8	▲ 12.0	

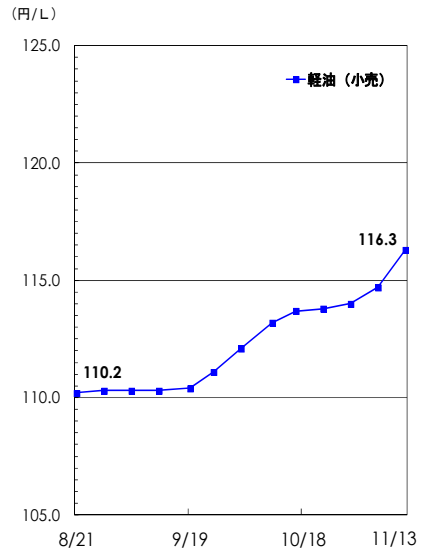
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

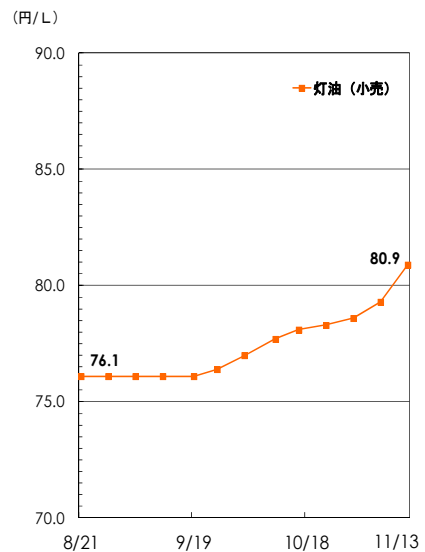
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/5 ~ 11/11	744 ▲ 9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	685 ▲ 120	▼ -	
	輸出	"	91 ▼ -51	▼ -	
	在庫	11/11	1,361 ▼ -31	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/7 ~ 11/13	57.7 ▲ 2.4	▲ 14.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/7 ~ 11/13	55.0 ▲ 2.0	▲ 13.2
		(TOCOM/中部)	11/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/13	116.3 ▲ 1.6	▲ 11.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/5 ~ 11/11	337 ▲ 26	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	389 ▲ 90	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	11/11	2,519 ▼ -52	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/7 ~ 11/13	59.7 ▲ 2.0	▲ 15.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/7 ~ 11/13	59.9 ▲ 1.8	▲ 16.2
		(TOCOM/中部)	11/13	60.6 ▲ 1.1	▲ 16.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/13	80.9 ▲ 1.6	▲ 15.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月15日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比190万バレル増、ガソリン在庫も同90万バレル増と、ともに市場予想(それぞれ同220万バレル減、同80万バレル減)に反し積み増しになったこと、また、前日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報で、世界の石油需要が2017年日量10万バレル、2018年同20万バレルそれぞれ下方修正されたことから、供給過剰への警戒感が高まり、続落した。ただ、中東地域の地政学リスクの意識、続落による安値買いもあり、底値は堅

かった。12月限の終値は前日比0.37ドル安の55.33ドル、1月限の終値は前日比0.37ドル安の55.52ドルだった。

EIAによると、11月13日時点のガソリンの小売価格は前週比3.1セント値上がりの1ガロン2.592ドル(78.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.3セント値上がりの2.915ドル(88.2円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは5週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、11月5日～11月11日に休止したトッパー能力は16.3万バレル/日で、前週に対して6.2万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は351.6万klと、前週に比べ9.7万kl増加。前年に対しては10.2万klの減少。トッパー稼働率は89.8%と前週に対して2.5ポイントの増加、前年に対しては4.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/9.0%増、ジェット/51.7%増、灯油/8.3%増、軽油/1.3%増、A重油/1.5%減、C重油/19.1%減。今週のC重油の輸入は5.5万kl(前週比5.5万kl増)。軽油の輸出は9.1万kl(前週比5.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではすべての油種で増加した。前年比では、ガソリン、灯油、A重油で増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は97.9万kl(対前週3.7%増)と2週振りで前週比、前年比で増加となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット9.4万kl(対前週40.9%増)、灯油38.9万kl

(対前週30.0%増)、軽油68.5万kl(対前週21.2%増)、A重油23.5万kl(対前週20.7%増)、C重油23.2万kl(対前週19.4%増)。

(単位:千KL)

	今週 (11/5 ~ 11/11)	前週 (10/29 ~ 11/4)	前週比	
ガソリン	979	944	▲ 35	(4%)
ジェット燃料	94	67	▲ 27	(40%)
灯油	389	299	▲ 90	(30%)
軽油	685	565	▲ 120	(21%)
A重油	235	194	▲ 41	(21%)
C重油	232	194	▲ 38	(20%)
合計	2,614	2,263	▲ 351	(16%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月11日時点の在庫は、ガソリン、ジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、軽油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは164.1万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては3.0万kl多い。

灯油は251.9万kl、前週差5.2万kl減。前年に対しては4.6万kl多い。

軽油は136.1万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては6.7万kl少ない。

A重油は66.7万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては6.0万kl少ない。

C重油は201.9万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては10.4万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (11/11)	前週 (11/4)	前週比	
ガソリン	1,641	1,584	▲ 57	(4%)
ジェット燃料	1,052	998	▲ 54	(5%)
灯油	2,519	2,571	▼ -52	(-2%)
軽油	1,361	1,392	▼ -31	(-2%)
A重油	667	701	▼ -34	(-5%)
C重油	2,019	2,060	▼ -41	(-2%)
合計	9,259	9,306	▼ -47	(-0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月7日から11月13日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン110～112円台で大きく値上がり、軽油56～58円台で大きく値上がり、灯油58～60円台で大きく値上がりして推移した。

海上スポット価格は、ガソリン113～114円台で軟化、軽油60～61円台でやや軟化、灯油59円台でほぼ横ばいで推

移した。

先物価格は、ガソリン112～113円台でやや軟化、軽油55円台で横ばい、灯油59～60円台で軟化して推移した。

元売の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに1.5～2.0円の値上げだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月7日から11月13日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は全油種値上りした。

11月第3週(11月16日～11月22日、従来の表記「11月第4週」から変更致しました)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月7日～11月13日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.1円の値上がり、灯油は2.0円の値上がり、軽油は2.4円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.6円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は2.5円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが2.0円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は2.0円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは値上がりだった。

11月第3週(従来の表記「11月第4週」から変更致しました)の大手元売の卸価格は、全社が、ガソリン・軽油・灯油ともに1.5円～2.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (11/7 ~ 11/13)	前週 (10/31 ~ 11/6)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	58.7	56.6	▲ 2.1
	灯油	59.7	57.7	▲ 2.0
	軽油	57.7	55.3	▲ 2.4
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (11/7 ~ 11/13)	前週 (10/31 ~ 11/6)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	59.2	57.2	▲ 2.0
	灯油	59.9	58.1	▲ 1.8
	軽油	55.0	53.0	▲ 2.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/7～11/13実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.1	▲ 2.0	▲ 2.1
灯油	▲ 2.0	▲ 1.8	▲ 1.9
軽油	▲ 2.4	▲ 2.0	▲ 2.2
A重油	▲ 1.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.8円高の138.3円を付け本年最高値を6週連続で記録、軽油は同1.6円高の116.3円、灯油は同1.6円高の80.9円だった。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油も9週連続の値上がり、灯油は8週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは46都道府県で、横ばいはない、値下がりのは1県だった。全国最安値は埼玉県の133.2円(同1.2円高)、次が千葉県の134.7円(同1.7円高)、最高値は沖縄県の146.6円(同1.4円高)だった。最も値上がりしたのは、4.0円高の香川県(139.9円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売会社の卸価格は、全社・全油種とも2.0円の値上げとなったが、9週連続でガソリン

小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油は1.5～2.0円の値上げとなった。次週(11月20日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (11/13)	前週 (11/6)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	138.3	136.5	▲ 1.8	08/8/4 185.1
	灯油	80.9	79.3	▲ 1.6	08/8/11 132.1
	軽油	116.3	114.7	▲ 1.6	08/8/4 167.4

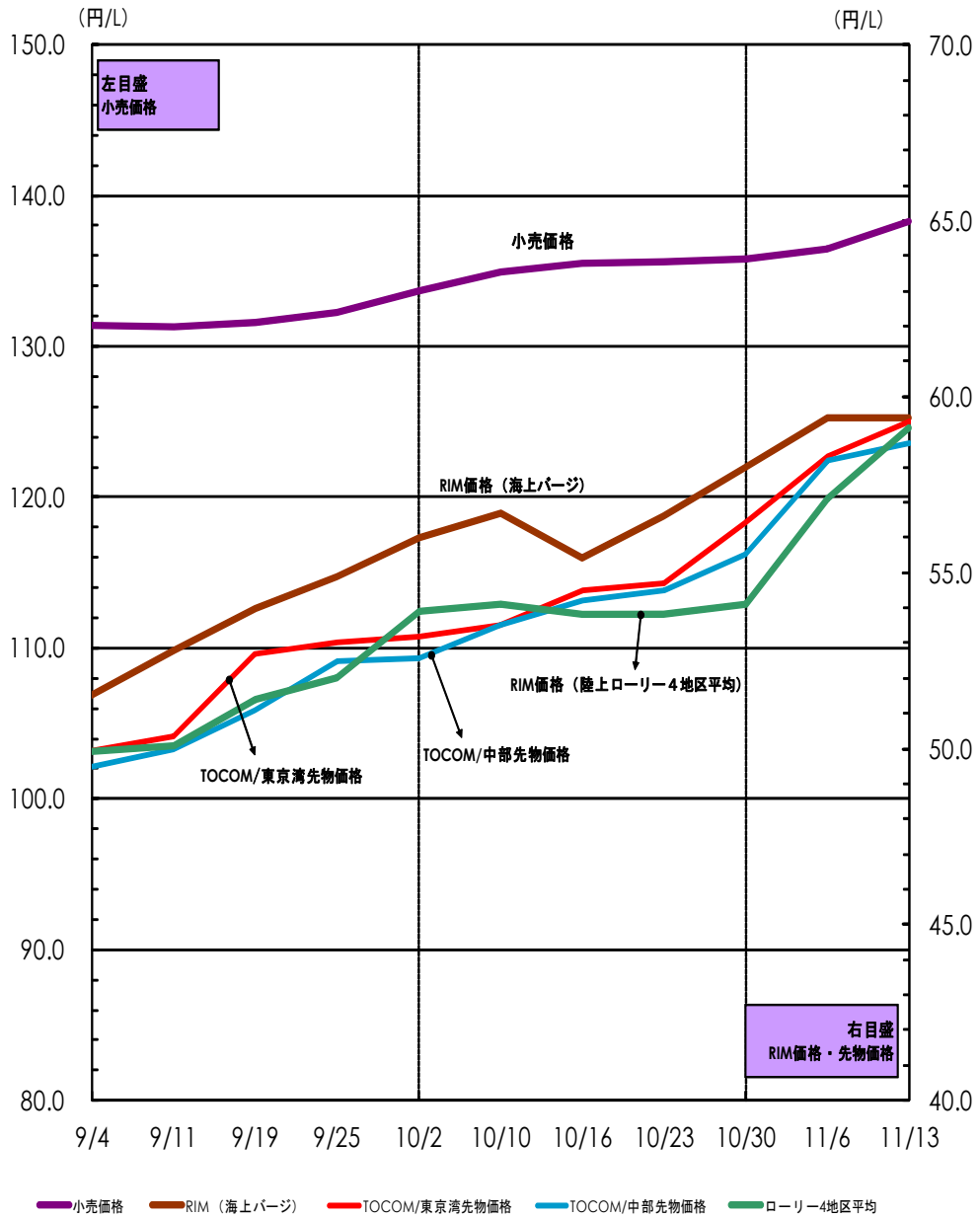
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/9/4 ~ 2017/11/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第32号)の公表は、11/24(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。